

校長研究部

① 研修会の実施状況

回	期 日	会 場	研 修 内 容	参加人数
1	5・31	教育会館	○全体会 研究テーマと研究内容の共通理解と確認 ○小中学校別情報交換	143 人
2	7・29	教育会館	○講話 「子どものこころの健康づくり」 浜松市精神保健福祉センター 所長 二宮 貴至 氏 「学校での事件や事故 こころの緊急支援」 浜松医科大学医学部附属病院 臨床心理士 望月 洋介 氏 「教職員に求められる法的資質 ～スクールロイヤーとしての経験から～」 弁護士法人 原総合法律事務所 弁護士 原 道也 氏	134 人
3	12・5	教育会館	○講話 「教育政策の方向性 ―『ウェルビーイング』の視点― 静岡大学 准教授 島田 桂吾 氏	131 人

② 研究部の研究内容

ア 本年度の研究目標

「超スマート社会（Society5.0）」の実現に向け、先端技術が高度化して社会の在り方そのものが劇的に変化すると共に、予測が困難な時代になっている。また、新型コロナウイルス感染症がいまだ収束しなかったり、平和の尊さを改めて感じたりする中、教育をめぐる状況は、大きな変化とうねりの中にある。このような中、国は、小学校における学級編成の標準を 35 人学級へ引き下げることや GIGA スクール構想などの具体的な施策を取り入れながら、すべての子供たちの可能性を引き出す「個別最適な学びと協働的な学び」の実現を図る「令和の日本型学校教育」の実現に踏み出している。

浜松市においても、第3次浜松市教育総合計画「はままつ人づくり未来プラン」後期が一昨年度からスタートしている。各学校においては、校長のリーダーシップの下、変化への対応だけでなく、より一層、学校の特色や地域性を生かした学校経営を進めていかなくてはならない。一方、校長の大量交代期の中で、校長職としての資質能力の向上が喫緊の課題である。そこで、以下の研究テーマを設定して研究を進めることとした。

研究テーマ「将来を展望し、より質の高い学校を目指して」

～「はままつの教育」の発展に資する校長としての資質向上～

イ 研究内容

(ア) 第1回研修会

今年度の研究テーマや研究内容、活動計画について説明し、共通理解を図ることができた。また、小中学校別に分かれて、情報交換を行った。

特に、学校における情報セキュリティ対策については、学校情報のセキュリティ管理者となる校長が、状況の点検やセキュリティインシデント発生の対応などを、教職員や学校情報セキュリティ責任者（ICT 教育推進担当課長）と連絡・連携を図ることが重要であることを共通理解することができた。

(イ) 第2回研修会

浜松市精神保健福祉センター所長 二宮 貴至氏からは、中学生メンタルヘルス実態調査から、子供たちの相談相手や SNS に起因する事犯の被害児童数の推移などのデータを示していただいた。

また、学校における子供のメンタルヘルス支援に関し、予防教育の充実と早期支援強化を図るねらいとした「子どものこころの健康づくり地域体制整備会議」の検討骨子があり、学校全体を安心・安全の場にしていかなければならないというお話をいただいた。



二宮 貴至 氏による講話

浜松医科大学医学部附属病院 臨床心理士 望月 洋介氏からは、学校危機の具体的出来事を示していただいた。

さらに、応急処置、緊急支援の必要性、学校全体の事前の共通認識や、場のケアに必要なことなど、実際の危機場面を想定した対応について説明をいただいた。特に、緊急支援プログラムについては、子供たちへの伝え方、保護者への伝え方、臨時保護者会への流れ、報道への初期対応など、切実感のある内容であった。



望月 洋介 氏による講話

弁護士法人 原総合法律事務所 弁護士 原 道也氏からは、子供の権利相談や代理人としての活動、弁護士会による「人権救済措置申し立て案件の調査」などを紹介していただいた。

特に、学校関係案件における弁護士の対応の実際として、「持ち物を壊された」や「無視された」、「いじめがあったのに学校が対応してくれない」などの例を示し、「事実」と「評価」の峻別や、目的の正当性、過失の構造など、求められる法的要素を分かりやすく説明してくださった。



原 道也 氏による講話

(ウ) 第3回研修会

静岡大学准教授 島田 桂吾 氏からは、「令和の日本型学校教育」の背景や、「はままつ未来プラン」の施策である、キャリア教育やコミュニティ・スクールなどについて、その法制度や仕組みについて伺うことができた。また、講話を進行する際には、スマホの「学びアプリ」を利用してつかんだ参加者の意見の傾向と、統計データを比較しながら講話を進められた。「学びアプリ」は、発表者名が分かるので、教職員等の会議でも活用できると感じた。



島田 桂吾 氏による講話

さらに、静岡大学教育学部の教職キャリア形成については、在学している大学生に対し、教職養成課程の4年間を通して、一連の教職キャリア関連科目を効果的に連動させるプログラムを実施している話を伺った。その中で、大学生が、教職志望状況に影響を与えたもののや、教育実習の前後で不安に感じたことの紹介は、学校現場で初任者や若手の指導に生かすことができる内容であった。

③ 研究の成果と課題

一昨年度から浜松市教育研究会校長研究部として、年間3回の研修会を計画・運営してきている。昨年度は、新型コロナウイルス感染拡大のため第3回研修会を中止し、第1回・第2回研修会のみ実施した。本年度は、感染の状況が落ち着き、また、感染防止対策が十分できると判断し講師を会場に招いた講演会形式の研修会を実施することができた。

成果としては、校長のリーダーとしての意識の向上や、管理運営能力や人材育成力を高められた研修になったことである。特に、第2回研修会では、参加者から、「学校運営上、大変参考になる内容であった。」「子供や保護者との良好な関係を保つ努力、教職員間の関係を良好にする体制づくりが、緊急支援や危機管理に役に立つことを感じた」などの感想が聞かれた。また、第3回の研修会では、参加者からは、「『はままつの教育』を理論的に受け止めることができた。」「なぜ、キャリア教育を推進しているのかが分かった。」などの感想が聞かれた。

課題としては、「新たな教師の学び」が令和5年から制度化されることへの対応である。この仕組みが有効に機能するためには、校長の役割が重要になる。教職員の育成は、学校のリーダーである校長の役割が大きいからである。それを踏まえて、本研究部でも、学校のリーダーとしての資質・能力を高める研修を今後も計画していきたい。校長に求められるアセスメント能力やファシリテーション能力に加え、教職員共通に求められる資質である、教職に必要な素養、学習指導、生徒指導、特別な支援を必要とする子供への対応、ICTや情報・教育データの利活用などを年度当初の年間計画に位置付けておきたい。また、行政主催の研修内容とも関連させながら、学校運営にとどまらない内容の研修を構想し、年間3回の研修会に反映させていきたい。

(文責 校長研究部長 松山 徹)